

Ⅱ 成果の公表

1. 普及に移す技術課題および普及・行政・教育の参考となる技術情報

令和5年度 第1回農業・農村の課題調整会議

令和5年9月7日（木） 農業研究開発センター 交流・サロン棟

1) 普及に移す技術課題

	課題名	担当
1	十分な切り花長が確保できる5～6月出荷用小ギク新品種の育成	育種科
2	有機栽培におけるアブラナ科軟弱野菜を加害するキスジノミハムシの対策	環境科

2) 普及・行政・教育の参考となる技術情報

	課題名	担当
1	促成イチゴにおけるヒラズハナアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	環境科
2	カキのミカンキイロアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	環境科
3	SDHI剤耐性トマト葉かび病菌に対してイソフェタミドは高い防除効果を有する	環境科
4	カキ産地の季節労働者確保に向けた提案	研究企画推進課
5	カキでのチャノキイロアザミウマに対する7月の追加防除の有効性	果樹・薬草研究センター
6	ヤマトウキ露地育苗におけるベッドの深さおよび灌水の有無が苗数や苗の根部形状に及ぼす影響	果樹・薬草研究センター
7	一番茶（かぶせ茶）の製茶品質と単価が向上する被覆開始時期と被覆期間	大和茶研究センター
8	ホウレンソウのルテイン含量に関する品種間差異	大和野菜研究センター、加工科

2. 農業研究開発センター成果発表会

令和6年2月15日（木） 農業研究開発センター 交流・サロン棟

1) 成果の紹介（口頭発表）

発表者		課題名
果樹・薬草研究センター	兵頭由浩	抽苔しにくいヤマトトウキの選抜
大和茶研究センター	梨原嵩司	台湾・アメリカへの輸出に対応した茶生産技術の確立
大和野菜研究センター	浅尾浩史	ホウレンソウの機能性成分ルテインの含量について
育種科	今西將太	多様な用途に対応したイチゴ新3品種の育成
環境科	藤森颯太	促成イチゴ栽培における新天敵（アブラバチ）を加えた総合的防除体系の確立
育種科	虎太有里	需要期安定出荷と市場シェア確保を目指した小ギク新品種の育成

2) ポスター展示

1	吸湿剤を使って施設内の温湿度を調整する装置の開発
2	奈良オンリーワン酒米品種の育成
3	渋柿を原料とするシロップ漬けの開発
4	遺伝子診断（PCR）によるトマト、キクの重要病害の殺菌剤に対する耐性菌の検出
5	ワイン用ブドウ品種の県内栽培適性調査
6	カキのジョイント栽培用大苗生産方法
7	ヒロハセネガ種子の採種の効率化と休眠打破条件の解明

3. 刊行物

【奈良県農業研究開発センター研究報告 第55号 2024.3】

[原著]

井村岳男・中野智彦・竹中勲・神川 諭	奈良県における有機栽培のアブラナ科軟弱野菜を加害するキスジノミハムシの物理的防除	55:1-5(2024)
小島 英・米田健一	ヤマトトウキの定植時期および根頭径の違いが抽苔および収穫後の乾燥根重に及ぼす影響	55:7-11(2024)
谷河明日香・奥 勇一	被覆開始時期の違いがチャの新芽生育および品質に及ぼす影響	55:13-18(2024)

[短報]

佐野太郎・米田祥二・木矢博之	遺伝資源の保存と活用を目的としたポット立体栽培によるスイカ採種の検討	55:19-22(2024)
虎太有里・芳田侃大・辻本直樹	キク白さび病抵抗性小ギク品種の探索と抵抗性の遺伝様式	55:23-26(2024)
井村岳男・福山穂奈美	奈良県五條市の露地カキ園から採集したミカンキイロアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	55:27-29(2024)
米田健一	電動工具を利用したヤマトトウキにおける芽くり作業の効率化	55:30-33(2024)
米田健一	土壌表層の状態がヒロハセネガ幼苗の生存率に及ぼす影響	55:34-36(2024)
峯 圭司・安川人央・浅尾浩史・辰巳嘉人・西本登志	‘丹波黒’のエダマメ栽培における移植遅延した場合の摘心したセル苗の利用	55:37-39(2024)

[研究ノート]

辻本誠幸・濱口雄汰・福山穂奈美	奈良県におけるウメの開花期について	55:40-45(2024)
-----------------	-------------------	----------------

【令和5年度成果情報】

[2月20日ホームページ公開]

課題名	担当
十分な切り花長が確保できる5~6月出荷用小ギク新品種の育成	育種科
有機栽培におけるアブラナ科軟弱野菜を加害するキスジノミハムシの対策	環境科
促成イチゴにおけるヒラズハナアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	環境科
カキのミカンキイロアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	環境科
SDHI剤耐性トマト葉かび病菌に対してイソフェタミドは高い防除効果を有する	環境科
カキ産地の季節労働者確保に向けた提案	研究企画推進課
カキでのチャノキイロアザミウマに対する7月の追加防除の有効性	果樹・薬草研究センター
ヤマトトウキ露地育苗におけるベッドの深さおよび灌水の有無が苗数や苗の根部形状に及ぼす影響	果樹・薬草研究センター
一番茶（かぶせ茶）の製茶品質と単価が向上する被覆開始時期と被覆期間	大和茶研究センター
ホウレンソウのルテイン含量に関する品種間差異	大和野菜研究センター、加工科

【栽培マニュアル・技術資料】

資料名	ホームページ 公開年月
有機栽培におけるアブラナ科軟弱野菜を加害するキスジノミハムシの対策	2024. 1
醸造用ブドウ栽培暦	2024. 2
奈良県における土着天敵を活用した露地ナスの総合的害虫管理マニュアル（改訂）	2024. 3
ヤマトトウキ栽培マニュアル	2024. 3
カノコソウ栽培マニュアル	2024. 3
ヒロハセネガ栽培マニュアル	2024. 3
ボウフウ栽培マニュアル	2024. 3

【農業研究開発センターニュースvol.164 2023.6】

産地間競争に打ち勝つ5～6月咲き小ギクの育成
イチゴ新品種‘奈乃華’の栽培技術の確立
柿葉の機能性成分について
アブラナ科軟弱野菜の有機栽培で活用できるキスジノミハムシ対策
カキでのチャノキイロアザミウマに対する7月追加散布の有効性
トマトの夏秋栽培品種‘麗夏’における頂裂型乱形果の発生原因

【農業研究開発センターニュースvol.165 2023.12】

台湾・米国向け茶生産技術の確立
小麦栽培における省力的な開花期追肥技術
トマト葉かび病の伝染源に対して太陽熱消毒が有効
ヤマトトウキの良苗を得るための栽培管理法
高温期に良好な生育を維持するためのヒロハセネガの播種時期
農業技術功労者表彰を受賞しました

4. 知的財産権の保有状況

特許権等の名称	発明考案者	出願年月日	登録年月日 登録番号	共同保有機関
柿タンニンの抽出方法、及びこの方法で抽出された柿タンニン	濱崎貞弘	H16. 3. 24	H22. 4. 23 特許第4500078号	
			R6. 3. 25消滅 登録期間満了により	
切り花収穫機	仲 照史 角川由加 小山裕三	H21. 10. 13	H26. 11. 7 特許第5640270号	農業・食品産業技術総合研究機構 みのる産業(株)
植物生育環境調節装置	西本登志 堀川大輔 穴戸拓樹 佐野太郎	H25. 5. 2	H27. 4. 10 特許第5725627号	大阪府立環境農林水産総合研究所 鳥取大学 農業・食品産業技術総合研究機構 タキロンシーアイシビル(株)
			R5. 4. 10消滅 共有者全員 権利放棄により	
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した園芸用施設への二酸化炭素供給装置	西本登志 仲 照史 廣岡健司 佐野太郎	(H23. 9. 13) 国内優先権 H24. 9. 12	H29. 7. 28 特許第6179915号	産業技術総合研究所 農業・食品産業技術総合研究機構 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)

品種名	育成者権者	登録年月日	登録番号	備考
古都華	奈良県	H23. 10. 5	21164号	
春日の紅	奈良県	H25. 3. 6	22340号	
千都の舞	奈良県	H28. 3. 1	24776号	
春日の鈴音	奈良県	H29. 3. 28	25914号	
HC3-6-10-11	奈良県	H29. 4. 25	25973号	やまと甘なんばん
春日W1	奈良県	H30. 10. 10	27042号	春日の泉
春日Y1	奈良県	H30. 10. 10	27043号	春日の光
春日Y2	奈良県	R2. 3. 9	27845号	春日の星
珠姫	奈良県	出願R1. 9. 9	出願番号34159号	
奈乃華	奈良県	出願R2. 8. 26	出願番号34891号	
ならあかり	奈良県	出願R3. 8. 16	出願番号35648号	
春日R1	奈良県	出願R5. 3. 28	出願番号36737号	春日の姫
春日W2	奈良県	出願R5. 3. 28	出願番号36738号	春日の空

5. 令和5年度 成果情報(近畿中国四国農業試験研究推進会議 2024.3)

No.	推進部会	成果情報名	科名	研究者
1 研究	野菜	ホウレンソウの各作型におけるルテイン含量に関する品種間差異と葉色との相関	大和野菜研究センター	浅尾浩史・西野精二・安川人央・峯 圭司・辰巳嘉人・西本登志

6. 学会・研究会誌への投稿等

著者名	タイトル	種類	学会・研究会誌名	巻号：頁	発表年月
藤森颯太・小林甫・今村剛士・瀧上彩花	奈良県の促成イチゴにおけるスピノサドの殺虫効果が低いヒラズハナアザミウマの発生	短報	関西病虫害研究会報	65:102-103	2023. 6
浅野峻介・芳田侃大	Sensitivity of tomato leaf mould-causing <i>Fulvia fulva</i> to seven succinate dehydrogenase inhibitor (SDHI) fungicides in Nara Prefecture, Japan and high efficacy of isofetamid in controlling SDHI-resistant isolates	原著	Journal of Phytopathology	172(1):e13243	2024. 1

7. 学会・研究会、シンポジウム等での発表・講演

学会・研究会(口頭発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
浅野峻介	<i>Fuligo gyrosa</i> によるキク変形菌病の初報告	第105回関西病虫害研究会大会	関西病虫害研究会第105回大会講演要旨：1	2023. 6. 2
藤森颯太・小林 甫・今村剛士・淵上彩花	奈良県の促成イチゴにおけるスピノサドの殺虫効果が低いヒラズハナアザミウマの発生	第105回関西病虫害研究会大会	関西病虫害研究会第105回大会講演要旨：5	2023. 6. 2
小島 英	カキ落葉病類と果樹カメムシ類に対するドローン散布の防除効果	令和5年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 果樹推進部会果樹研究会	令和5年度近畿中国四国農業試験研究推進会議果樹研究会資料：38-40	2023. 7. 20
野あおい・濱崎貞弘	カキタンニンの化学構造と機能性との関連性	日本食品科学工学会 第70回記念大会	第70回記念大会講演要旨集：80	2023. 8. 25
藤森颯太・井村岳男	遅効性薬剤に対応したアザミウマ類の簡易薬剤感受性検定法の開発	第27回農林害虫防除研究会 和歌山大会	第27回農林害虫防除研究会和歌山大会講演要旨：13	2023. 8. 29-30
浅尾浩史・西野精二・安川人央・峯 圭司・辰巳嘉人・西本登志	収穫前5日間の照度がハウレンソウのルテイン含量に及ぼす影響	令和5年度園芸学会 近畿支部大会	園芸学研究第23巻別冊1:463	2023. 9. 15
神川 諭・矢奥泰章・米田祥二・今西將太	育苗期の施肥がイチゴ‘奈乃華’の心止まり株の発生に及ぼす影響	令和5年度園芸学会 近畿支部大会	園芸学研究第23巻別冊1:465	2023. 9. 15
浅尾浩史・浅野峻介・西本登志・安川人央・峯 圭司	イチゴ果実糖度とポリガラクトナーゼ遺伝子発現量との関係	日本育種学会	育種学研究25(別2)2023	2023. 9. 16
浅尾浩史	大和野菜の振興と育種	日本育種学会 市民公開シンポジウム	-	2023. 9. 18
松山俊介	奈良県における小麦「はるみずき」の普及と省力化に関する取組について	令和5年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 作物生産推進部会冬作技術研究会	令和5年度近畿中国四国農業試験研究推進会議冬作技術研究会資料：18-21	2023. 9. 19

浅野峻介・堀浩太郎	奈良県におけるQoI剤耐性トマト葉かび病菌の発生状況とピリベンカルブの防除効果	令和5年度日本植物病理学会関西支部会	令和5年度日本植物病理学会関西支部会プログラム・講演要旨予稿集:17	2023. 9. 23
堀 浩太郎・浅野峻介	キク白さび病に対するピラクロストロビンとインピルフルキサムの防除効果とその感受性	令和5年度日本植物病理学会関西支部会	令和5年度日本植物病理学会関西支部会プログラム・講演要旨予稿集:18	2023. 9. 23
米田健一	奈良県の薬用作物における病害虫防除の現状と課題	日本植物防疫協会シンポジウム「中山間地域における病害虫防除の課題」	講演要旨:69-84	2023. 9. 27
藤森颯太・今村剛士・今村彩花	イチゴ促成栽培でのヒラズハナアザミウマ防除におけるククメリスカブリダニ放飼方法の検討	第32回天敵利用研究会松江大会	第32回天敵利用研究会松江大会講演要旨集:20	2023. 12. 18-19
兵頭由浩	抽苔しにくいヤマトウキの選抜	漢方プロジェクト・研究分野統合本部講演会・研究発表会	漢方プロジェクト・研究分野統合本部講演会・研究発表会配付資料	2024. 3. 10
浅野峻介・堀浩太郎	イチゴうどんこ病菌のメパニピリムに対する耐性菌の初報告	令和6年度日本植物病理学会大会	令和6年度日本植物病理学会プログラム・講演要旨予稿集:44	2024. 3. 14
堀 浩太郎・浅野峻介	キク白さび病に対する各種薬剤の散布間隔別での防除効果	令和6年度日本植物病理学会大会	令和6年度日本植物病理学会プログラム・講演要旨予稿集:44	2024. 3. 14
浅野峻介	トマト葉かび病菌に対する有効なSDHI剤の探索	第33回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム	第33回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム講演要旨集:26-33	2024. 3. 16
峯 圭司・辰巳嘉人・浅尾浩史・安川人央・森岡正・西本登志	奈良県中山間地域におけるイチゴの促成栽培用品種の収量性比較	園芸学会令和6年度春季大会	園芸学研究第23巻別冊1:115	2024. 3. 23
神川 諭・佐野太郎・今西将太・矢奥泰章・米田祥二	パイプハウスにおける無機系吸着材の温湿度調整能力の検討	園芸学会令和6年度春季大会	園芸学研究第23巻別冊1:121	2024. 3. 23

今西將太・神川 諭・佐野太郎	遮熱資材の展張がハウス内環境とイチゴの腋花房の開花に及ぼす影響	園芸学会令和6年度春季大会	園芸学研究第23巻別冊1:122	2024. 3. 23
辰巳嘉人・峯圭司・安川人央・浅尾浩史・森岡正・西本登志	送風機による夏秋ミニトマトの着果促進効果	園芸学会令和6年度春季大会	園芸学研究第23巻別冊1:157	2024. 3. 24
浅尾浩史・峯圭司・辰巳嘉人・西本登志	採種時期・方法と採種後の保存方法がヒロハセネガの発芽率に及ぼす影響	園芸学会令和6年度春季大会	園芸学研究第23巻別冊1:135	2024. 3. 24
松山俊介・小林幹生	開花期における高濃度の尿素液肥の葉面散布が「はるみずき」の収量および子実タンパク質含有率に及ぼす影響	日本作物学会第257回講演会	日本作物学会第257回講演会要旨集:66	2024. 3. 28
井村岳男	奈良県におけるヤガ科抵抗性害虫3種の殺虫剤感受性	第68回日本応用動物昆虫学会大会	第68回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集:56	2024. 3. 29
藤森颯太・今村剛士・今村彩花	イチゴ促成栽培でのヒラズハナアザミウマ防除におけるククメリスカブリダニの放飼方法の検討	第68回日本応用動物昆虫学会大会	第68回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集:76	2024. 3. 29

学会・研究会(ポスター発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号:頁	発表 年月日
N. Tsujimoto, K. Inda and Y. Harada	Effect of water supply material volume and leaf area during transportation on the quality of cut dahlia flowers	The 4th Asian Horticultural Congress	Abstract book:104	2023. 8. 29
T. Tsujimoto and T. Nakamura	Flow cytometry-based method for determining ploidy using dormant buds of persimmon and related species	The 4th Asian Horticultural Congress	Abstract book:87	2023. 8. 30
虎太有里・辻本直樹・印田清秀	シクラメンの葉の黄変とエチレン感受性における品種間差	園芸学会令和6年度春季大会	園芸学研究第23巻別冊1:355	2024. 3. 23
米田健一・兵頭由浩・三村知彰・小島英	物体検出アルゴリズム“Yolo”を用いた果樹カメムシ類発生予察省力化の検討	第68回日本応用動物昆虫学会大会	第68回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集:115	2024. 3. 29

8. 著書・雑誌・新聞・資料等への掲載、イベント展示、報道発表、テレビ・ラジオ報道

(著書・雑誌)

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
濱崎貞弘	くだものよもやま話「果物偉人伝 カール・ペーテル・ツンベルク」	奈良の果樹	奈良県果樹 研究会	第320号	2023. 4
兵頭由浩	4～6月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹 研究会	第320号:6	2023. 4
浅野峻 介・芳田 侃大・仲 照史	ダリアにおけるキク矮化ウイロイ ドの感染状況と塩基配列および感 染が生育に及ぼす影響	植物防疫	(一社) 日 本植物防疫 協会	第77号第5号： 247-253	2023. 5
虎太有里	奈良県における切り花ギクの新品 種育成の取り組み	近畿の花情報	近畿花き振 興協議会	No. 63：11-12	2023. 6
米田健一	カキ加温施設栽培における収穫時 期予測	施設と園芸	(一社) 日 本施設園芸 協会	第202号:13	2023. 7
濱崎貞弘	くだものよもやま話「柑橘は体に 良い・・・けれど病気によっては 控えたほうが良いという話」	奈良の果樹	奈良県果樹 研究会	第321号	2023. 7
小島 英	7～9月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹 研究会	第321号:6	2023. 7
松山俊介	奈良県におけるコムギの省力的な 開花期追肥技術	農業および園芸	(株) 養賢 堂	第98巻第9号： 783-787	2023. 9
濱崎貞弘	くだものよもやま話「光で鮮度が 保たれる？近赤外線の不思議」	奈良の果樹	奈良県果樹 研究会	第322号	2023. 10
兵頭由浩	10～12月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹 研究会	第322号:6	2023. 10
濱崎貞弘	柿渋をつくる、柿渋でつくる 圧力鍋でかんたん柿渋づくり	別冊現代農業 柿暮らし	(一社) 農 山漁村文化 協会	58-61	2023. 10
濱崎貞弘	柿の葉を使う 紅葉した柿の葉を長く保存する方 法 柿の葉寿司の作り方	別冊現代農業 柿暮らし	(一社) 農 山漁村文化 協会	76-81	2023. 10

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
藤森颯太	奈良県の促成イチゴ栽培における天敵利用	施設と園芸	(一社) 日本施設園芸協会	第203号：42	2023.10
虎太有里	電照と無加温ハウスを利用した小ギクの11月安定出荷技術の開発	施設と園芸	(一社) 日本施設園芸協会	第204号：26	2024.1
濱崎貞弘	くだものよもやま話「果物初詣 星宿山王禅寺」	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第323号	2024.1
兵頭由浩	1～3月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第323号：6	2024.1
米田健一	奈良県の薬用植物における病虫害防除の現状と課題	植物防疫	(一社) 日本植物防疫協会	第78巻第1号：44-47	2024.1
脇坂 勝	茶苗生産・栽培マニュアルについて	茶やまと	奈良県茶生産青年協議会	第72号：20-22	2024.2
三村知彰	果樹園管理のポイント（カキ）	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol.79(3)：95-97	2024.3
辻本直樹	奈良県のダリアの現状	日本ダリア会会報	日本ダリア会	第20号：13	2024.3
虎太有里	鉢ものポインセチアの品質管理	農業技術大系 花卉編	(一社) 農山漁村文化協会	追録第26号第4巻：186の3の40-44	2024.3
虎太有里	鉢ものシクラメンの品質管理	農業技術大系 花卉編	(一社) 農山漁村文化協会	追録第26号第4巻：186の3の46-51	2024.3
三村知彰	果樹園管理のポイント（カキ）	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol.79(1)：99-101	2024.1

(イベント展示)

担当	タイトル・テーマ・見出しなど	イベント名	発表年月日
加工科	奈良式柿タンニンの機能性活用への基礎研究	農研機構食品研究成果展示会2023	2023. 11. 8
奈良県農業研究開発センター	県育成品種の紹介、研究成果の事業化、新たな共同研究シーズの発見	アグリビジネス創出フェア2023	2023. 11. 20-22
果樹・薬草研究センター	果樹・薬草関係成果の紹介 (パネル展示)	果樹・薬草研究センター開放デー	2023. 11. 23
奈良県農業研究開発センター	研究成果の発表、成果発表会の紹介 (ポスター展示)	県庁屋上展示	2024. 1. 9-12

(報道発表)

担当	タイトル	発表年月日
研究企画推進課	センターニュースvol. 164を発行しました	2023. 7. 31
研究企画推進課	農業研究開発センター公開デー開催!	2023. 10. 2
果樹・薬草研究センター	「果樹・薬草研究センター」開放デー開催	2023. 10. 20
研究企画推進課	農業研究開発中期運営方針(案)の意見募集	2023. 12. 15
研究企画推進課	農業研究開発センター成果発表会を開催します!	2024. 1. 9
研究企画推進課	センターニュースvol. 165を発行しました	2024. 2. 2

(新聞)

担当者	タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	掲載日
井村岳男	春夏野菜主要病害虫防除のポイント 虫害	全国農業新聞 第3278号: 5	2023. 4. 7
井村岳男	秋冬野菜主要病害虫防除のポイント 虫害	全国農業新聞 第3349号: 9	2023. 8. 11
杉村輝彦	まほろば力 (柿博物館)	朝日新聞	2023. 12. 31

(奈良新聞「農を楽しむ」)

担当者	タイトル	所属	掲載日
長城利彦	水稻の直播栽培	研究企画推進課	2023. 5. 14
小林幹生	小麦を食べる	育種科	2023. 6. 11
峯 圭司	種を食べるカボチャ	大和野菜研究センター	2023. 7. 9
高松元紀	コマツナについて	環境科	2023. 8. 13
米田健一	ワインブドウのはなし	果樹・薬草研究センター	2023. 9. 10
武田偉吹	多彩なキクの世界	育種科	2023. 10. 8
木村 桐	乳酸菌のはなし	加工科	2023. 11. 12
脇坂 勝	茶の歴史について	大和茶研究センター	2023. 12. 10
辻本誠幸	ウメの花はいつ咲くか	果樹・薬草研究センター	2024. 1. 14
神川 諭	空飛ぶイチゴ	育種科	2024. 2. 11
堀 浩太郎	紫外線で病気を防ぐ	環境科	2024. 3. 10
野あおい	渋味成分について	加工科	2024. 4. 14

(テレビ・ラジオ)

発表者	番組・タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	発表年月日
宮本大輔	ぐるっと関西・茶品種「やまとみどり」について	NHK奈良	2023. 6. 23
杉村輝彦	おてつだいバラエティ「よるずやが来た」・柿博物館の紹介	KCN、YouTube	2023. 10. 16
杉村輝彦	「ならナビ」ならホリ・柿産地の由来	NHK奈良	2023. 10. 17
濱崎貞弘	ニュースほっと関西サタデー「ココホレ! 関西“柿のまち”五條で秋をがぶり!」	NHK総合TV 近畿圏放送	2023. 10. 28
杉村輝彦	西乃風ブラン堂・柿博物館や柿産地の紹介	毎日放送、Tver	2023. 11. 13
濱崎貞弘・辻本誠幸	世界! ニッポンに行きたい人応援団「“干し柿”つくるブラジル夫婦」	テレビ東京 全国放送	2024. 1. 29

9. 令和5年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

令和5年11月20日開催 農業研究開発センター交流・サロン棟

評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題
中期運営方針に基づき、令和5年度に実施した、7つの大課題、20の小課題を対象とする。
- 2) 評価方法
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

上田味哥子	元奈良県指導農業士会会長
鶴木千里	元奈良県消費生活審議会委員
前田伸一	元奈良県指導農業士会会長
森山達哉	近畿大学農学部長
乾 新弥	奈良県食と農の振興部長

各研究課題の評価(評価委員の平均値で記載)

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
薬用作物の安定供給	地域ブランド力を高める薬用作物生産技術の開発	抽苔しにくい優良品種の育成	4.2	3.2	3.2	10.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・抽苔しにくい品種候補の種が多数取れているので、その中から選抜されていくと思う。吸水処理により発芽率が改善されるということで、苗を作っていけると思うので、次につながっていくと考える。5年間で確実に種子の数が増やせているので評価できる。 ・抽苔しにくい優良品種の育成が達成されつつあるので、目的の成果は得られると考えられる。一方で、まだ確定的な品種の確保までは至っておらず、研究期間が必要である。今後は、経済効果なども含めて、実需者へのメリットを定量的に評価し、アピールすることも必要と考えられる。 ・今回の成果を踏まえ、選抜が継続される系統もあるとのこと。収量性を高められる優良品種として実証されることを期待する。 ・非常に重要な研究であり、結果も良好である。 				
		実需者の求める高品質な薬用作物生産技術の開発	4.2	4.2	4.2	12.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・高畝や浅植えの技術、分岐の少ない苗の育苗方法など一年毎に研究結果を出せている。また、農薬登録拡大は生産者にとっては防除の手間が少なくなるので大変助かる。 ・現場のニーズに応える重要な課題と言える。飛躍的な効果とまでは言えないが、統計的に有意な効果を示した点は重要である。農薬の登録拡大も終え、マニュアルの改訂、現地実証試験など、目に見える成果が得られている。この成果を実需者へ効率的に提供し、収益性の向上を目指して頂きたい。 ・すでに実証試験、改訂マニュアルに基づく現地指導もされており、安定生産による収益性の向上につながるのではないかと期待する。 ・成果が出ており、安定生産につなげてほしい。 				
		単味製剤原料向けトウキの省力栽培技術の開発	4.2	4.0	3.6	11.8
<ul style="list-style-type: none"> ・1穴密植栽培の収量比較など、確実に成果が出ている。廃棄されていた小苗の活用や、洗浄方法の省力化など、作り手にとってはとても有難く有効な技術であり、マニュアル化されたのはとても評価できる。 ・トウキの単味エキス製剤原料に特化した省力栽培法に関して、開発された1穴密植栽培の有用性が示唆され、当初の目的は達成しつつあると評価できる。作業時間や経済効果まで評価しており、優れた研究である。今後は、苗準備や定植にかかる作業時間増大に関して、有効な対策を工夫し、より省力化を目指していただきたい。栽培マニュアルの追記改訂により、実需者への効果的な普及活動を期待している。 ・ヤマトトウキ栽培マニュアルに基づいた情報提供と現地支援により安定生産につながることを期待する。 ・ヤマトトウキの省力栽培技術の結果が出ており非常に良い。 						

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
薬用作物の安定供給	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	4.2	4.0	3.2	11.4
		<ul style="list-style-type: none"> 宇陀地域に適した薬草の品種が絞り込めた事で、新しい薬草作りになると思うので、増産される事を期待する。 宇陀地域における新たな薬草生産による地域振興に資する重要な課題である。選定された4品目の効果的な栽培方法を明らかにした点は高く評価される。ヒロハセネガの現地導入に有益な情報として実需者への効果的な周知、社会実装が望まれる。 ヒロハセネガは現場導入が試みられているとのことで良かった。 ヒロハセネガを宇陀地域にうまく定着させ、地域振興につなげてほしい。 				
優良品種の育成	奈良オリジナルの優良品種の育成	需要期に安定して開花する小ギクや特色ある奈良ブランド菊の新品種の育成	5.0	4.0	4.0	13.0
		<ul style="list-style-type: none"> 5~6月出荷の小ギクの育成から品種登録出願ができたのは、研究の成果だと思う。新品種のキクについてもバリエーションに富んでおり、生産農家も増えているので大変良い研究だったと思う。 仏花等としてのキクの責任産地として、本研究は重要な課題である。春日Y2の品種登録や白色有望品種の選抜、特殊ギク有望8品種など、想定以上の成果が得られたと言える。今後は実需者への成果の還元而努力し、栽培現場での収益性の向上を定量的に見届けて頂きたい。 普及組織との連携で登録品種の生産拡大につながることを期待する。 栽培面積も増えており、農家に浸透しはじめていくように感じる。 				
		奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.6	4.0	4.2	12.8
		<ul style="list-style-type: none"> 県オリジナルの酒米がなかった所から、有望系統を作り出し、研究としては結果が出たと思う。 奈良県を日本酒発祥の地としてさらにアピールしていくためには、奈良県産の良い酒米の開発は必須である。試験醸造のお酒は辛口淡麗で、スッキリとした味わいであった。欲を言うと、もう少し旨みが強いとより美味しいお酒になると思われる。酒蔵と共同で、ぜひストーリー性のある良い奈良県産清酒の開発を達成して頂きたい。上手くアピールして実需者を取り込んで行くことが必要であろう。 ストーリー性のあるおいしい奈良の清酒が、誰もが知る全国区のお酒になることを楽しみにしている。 酒造メーカーからも好感触で奈良県の新しい米作りに期待したい。 				
		新たな高品質甘柿品種の育成	5.0	3.4	3.8	12.2
<ul style="list-style-type: none"> 5年間の交配の中で有望品種ができたのはとても良いことです。味も大変甘くて食感も良く新品種として登録できる事を期待する。 柿は奈良県の重要果樹であり、既存の品種と収穫期が重ならないオリジナル品種の開発は県としての重要な課題である。本研究では、有望な系統が得られ、品種登録も見据えた現地適応試験まで予定しており、優れた成果が得られたと言える。将来的には収益性の高い品種として普及することを期待したい。 試食した柿は、大変美味しかった。高品質柿として出回る日を楽しみにしている。 新品種が出来る事で農家の栽培意欲も高まり産地の生産向上につなげてほしい。 						
遺伝資源の保存と活用	遺伝資源の保存と活用	奈良に歴史的ゆかりのある遺伝資源の保存と活用	4.0	3.4	4.0	11.4
		<ul style="list-style-type: none"> 種子の保存は継続していくべき事業と思っている。種子の更新もなされているし、新品種の開発にも役立っているので、良い取り組みだと思う。 本研究課題のような一見地味な取り組みこそ、自治体が継続的に行うべき課題であると感じた。このような遺伝資源から、将来有望な品種が開発できたり、ストーリー性のある品種が普及する可能性もあり、重要な社会的課題であると感じた。論文や学会発表などの成果の公表も行われており、また、配布試料を用いた社会実装も達成されていることから、評価できる。今後は、クラウドファンディングなどによる資金調達も有効かもしれない。 非常に重要な仕事であり、奈良の伝統を守り、また、普及にもつなげてほしい。 				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
加工商品の開発と加工技術の研究	奈良の特産品を用いたオリジナル加工品の開発	渋柿を原料とする糖蜜漬けの製造技術の開発	4.2	4.0	3.6	11.8
		<ul style="list-style-type: none"> 糖液の白濁や加工果実の褐変等の課題も改善されマニュアルも出来るので成果があったと思う。一年を通して柿のスイーツ等に活用できると思うので、より広まって欲しい。 生食以外の食べ方として種のない渋柿を材料にした糖蜜漬けの開発は、柿の新たな需要を起こす可能性のあるユニークな取り組みである。製造や品質に関する課題も解決され、あとは実需者への社会実装に努めて頂きたい。柿のフレーバーを強めることで、かき氷などへのトッピングにも使える。新たな食品として話題性もあり、ソーシャルネットワークやメディア戦略などへの展開など、攻めのアピールも検討して頂きたい。 県下の事業者によく採用してもらい、スイーツ等に利用してもらえるよう働きかけをお願いする。 長期保存が出来る事で、販売期間も長くなり、また、規格外の柿を使用する事で農家の手取りも増え有利販売になる。 				
		柿葉を利用した後発酵茶の開発	4.2	4.0	3.8	12.0
	<ul style="list-style-type: none"> 年々味も良くなっていて、お茶というよりは、別の（ジュース）飲み物のようであった。機能性もあるということなので販売もしやすくなると思う。 スッキリしてお茶というイメージを超える爽やかな飲料で、驚いた。奈良県産の機能性のある乳酸菌を取得し、エビデンスもあることから、もっとアピールすべき。できれば、得られた柿葉後発酵茶そのものの機能性を評価すべき。そうすれば、より大きなアピールとなり得る。 柿葉後発酵茶は想像したよりあっさりとした味で、清涼飲料水に近いように感じた。美味しかった。 					
	加工適性を高める栽培技術の開発	素麺やパンに適した新たな小麦品種の選抜	4.2	4.0	4.6	12.8
		<ul style="list-style-type: none"> パンや素麺を作っておられる方からの評価が良いという事なので、研究としては目標は達成されたと思う。 国産小麦は全国的に広く求められており、奈良県産の強力系品種の要望は高い。本課題では「はるみずき」の選抜と適した栽培体系の確立を行い、県推奨品種への指定、栽培普及などが達成されており、事業効果は高いと評価できる。さらに生産拡大や需要拡大に努めて頂きたい。 「ふくはるか」に代わる「はるみずき」の栽培体系が確立し、令和6年度より全面切替になるとのこと。素晴らしい成果が出て良かった。 国際情勢も不安定になっており、地産地消の考え方、また、学校給食に利用する事で食育にもなり非常に良い。 				
ワインに適したブドウ品種の果実品質研究		3.8	3.8	3.4	11.0	
<ul style="list-style-type: none"> 奈良県に適したワインブドウの品種が選定できたこと、標高も確認できたのは良かった。ブドウ生産に適した地域で、生産が増えていけばワイナリーの事業も成功すると思う。 ワイン・ワイナリーは人気の6次産業であり、新規就農者にとっても魅力的な材料である。本課題は奈良県に適したブドウ品種の選定と、その栽培技術の確立を行った。防除のポイントなども含め、重要な知見が得られたと評価できる。栽培好適地の選定や実需者へのアピール、社会実装を目指して美味しい奈良県産ワインの実現に向けて継続した取り組みが望ましい。 県下の唯一のワイナリーが安定して存続していけるよう支援をお願いする。 奈良県に適した品種の栽培が増える事で、地域振興にも期待したい。 						

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
高品質に繋がる生産技術の開発	機能性を向上させる生産技術の開発	大和野菜の機能性を向上させる生産技術の開発	3.8	3.8	3.2	10.8
		<ul style="list-style-type: none"> 大和野菜の機能の調査は大変良い研究である。ハウレンソウについては、品種の比較は良いが、生産者にとってその品種が作りやすいかが重要であるとも考える。 青果物の機能性表示食品が増えており、奈良県産の農作物にも適用できるかどうか、検討した研究であり、結果としてハウレンソウのルテインにフォーカスした。ルテイン量に影響を与える栽培技術の検討や作型ごとの高含有品種を明らかにした点、学会や論文での成果報告、生産現場への情報提供など優れた成果を挙げたと評価できる。一方で、現場での機能性表示化へと取り組む熱量を上げるところまでの波及効果には至っていないので、その点が今後の課題である。 機能性をうたうメリットが農家にとってさほどなく、ブランド力強化とその為の投資が釣り合わないという、理想のイメージと現実のすり合わせの困難さを感じた。 機能性を明示して販売する事で、消費者の購買意欲にもつながり、他産地との差別化がはかれ有利販売になる。 				
	輸出向け生産技術の開発	輸出需要向け茶生産技術の確立	4.6	4.0	3.6	12.2
		<ul style="list-style-type: none"> 日本国内でのお茶の需要が伸び悩む中で、この生産技術の活用で輸出が増えていくと良い。 日本茶の海外での人気上昇に合わせて、輸出茶葉、とくに残留農薬の基準値以下の茶葉が広く求められている。本課題では、農薬以外の防除法の検討や、減農薬の導入などを検討し、有効な栽培方法の提案が可能となった点が評価できる。奈良のお茶（大和茶）の、静岡や京都、三重など競合県との差別化に資する特徴をアピールすることも今後は期待したい。 今後も引き続きの研究をお願いする。 農薬の使用回数も半分以下に低下しており、有利販売が見込める。 				
安定生産技術の開発	環境変動に対応した安定生産技術の開発	吸湿剤を使って低コストに施設内の温湿度を調整するシステムの開発	4.2	3.2	3.2	10.6
			<ul style="list-style-type: none"> 燃油使用量の削減を目標に、ハスクレイを使ったシステムは研究が進んでいると思う。自動化に向けて続けて開発していくのも大切と思う。導入費用が高いのは少し気になる。 昨今の燃料の高騰に対応するための、化石燃料に頼らない施設内温湿度管理方法の検討であり、社会的な必要性は高い。本課題では、吸湿剤を用いた調整システムを詳細に検討し、そのシステムを構築した点は評価できる。しかしながら、得られた効果は限定的であり、また運用にはやや煩雑さを伴うため、社会実装は困難であろう。ただし、研究課題としての必要性は高いため、継続的な研究が求められる。 システムはできたけれども導入コストの問題で経営的に厳しいとのこと。小課題にも「低コストに」と入っていたので残念。 油代が高騰している中、新たな暖房・除湿のシステムはありがたい。 			
		計画出荷に不可欠なキクの開花予測技術の開発	4.6	3.8	3.8	12.2
		<ul style="list-style-type: none"> 開花予測が±2日の精度となったのは十分な成果。関係者の方が使いこなせ、市場への情報提供がなされる事を期待する。 計画出荷に使用できるキクの開花予想プログラムの開発に成功し、一定以上の成果が得られたと評価できる。今後は、現場でのスムーズな運用や、実測値との比較検討による精度アップ、NAROのWAGRIなどとの連携、AI利用のリベンジなど、さらに高度化、普及に期待する。 産地として、面積の拡大及び産地間競争にも有利に働くとと思う。 				
		遺伝子診断によるキク、トマトなどの重要病害診断技術の開発	4.2	3.4	4.0	11.6
		<ul style="list-style-type: none"> 抵抗性遺伝子の診断が、3週間から3日に大幅に短縮できたのは、大変評価できる結果。効率的な病害防除は農家としてはとてもありがたいが、病害発生時の判断が農家自身が見つけ、判断をしてもらう連携がうまくいけばよりよい。 抵抗性遺伝子の同定、判定用プライマーの設計、主要薬剤感受性検定など、キクやトマトなどの重要な作物に対する重要病害の診断に資する成果を得られた点は高く評価できる。実需者の利益になるために、本技術の現場での普及や導入、及び論文・学会等での成果公開が期待される。 現場の農家の助けとなるようスムーズな連携と情報提供がされることに期待する。 農家レベルでは、どの農薬が効果があるのかわからないのか、利用してみないとわからないので、より早く情報がほしい。 				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
省力化技術の開発	生産者に優しい生産技術の開発	脚立を使わないカキの低木栽培技術の開発	4.2	3.2	3.2	10.6
		<p>・低木栽培は農家にとっては有利な栽培方法になる。ジョイント栽培は他県でも試されており、共に課題があるとのことだが、導入されているという点においては評価できる。</p> <p>・本県での重要果樹である柿の安全、かつ負担の少ない栽培のための低木栽培技術は、現場からの要望や必要性も高い。本課題ではジョイント栽培やわい性台木の利用で低木栽培を試み、一定の目標を達成した。前者では、ジョイント外れが発生すること、後者ではちょうど良い樹高調節がなかなか難しいことなど、更なる課題が存在するので、栽培現場での社会実装を目指して、それらの課題の検討を継続して欲しい。</p> <p>・成果は出ておりとても良い。農家も高齢化しており、脚立を使用しない方が、安全性・省力化にもなり良いと感じる。</p>				
環境保全型農業技術の開発	環境に優しい生産技術の開発	天敵を利用した防除体系の安定化	4.6	3.4	4.0	12.0
		<p>・天敵製剤の利用は年々活用されていると思う。薬剤防除との組み合わせ技術は農家にとってはとても良い情報で、より精度が上がってくれる事を望む。</p> <p>・農薬に頼らない天敵を用いた防除体系の構築は今後の有機農業の進展にとって重要な課題である。本課題では、促成イチゴと露地ナスにおいて、天敵製剤と選択的殺虫剤等を組み合わせた減農薬栽培法の構築に成功した。とくに天敵製剤はその導入ポイントの選定が重要であるので、得られた成果は実需者にとって役立つであろう。普及への取り組みも継続して実施してほしい。</p> <p>・実用化に期待する。</p> <p>・天敵を利用しながら、安全な生産は農家にもありがたい。</p>				
環境保全型農業技術の開発	土壌改良に活用できる技術の開発	水田転換圃場の土壌改良技術の研究	4.2	3.2	3.8	11.2
		<p>・水田の畑地化利用に向けて暗渠の活用は有効であると実証されたのは、農家への情報提供としてとても実用性がある。</p> <p>・水田転換圃場の土壌改良は重要な課題である。研究成果として、概ね想定通りの結果が得られた点は評価できる。初期投資に見合う収量など経済的効果の妥当性なども今後は検討が必要であろう。</p> <p>・水田を畑地化させ、より多くの野菜の栽培が広がり新しい産地が見込める。</p>				

10. 共同研究・受託研究(外部資金研究)・委託研究の実施状況

共同・受託・委託研究 課題名	共同研究機関	委託事業 (資金)名	委託機関 (契約元)	担当科・ 研究センター	研究 期間
農地管理実態調査	—	農地土壌炭素貯留等基礎調査事業	農林水産省 近畿農政局	環境科	H25～
茶樹の新規育成系統における産地適性の検討	—	茶育種研究に係る系統適応性・特性検定試験	農研機構果 茶研	大和茶研究センター	H27～
植物遺伝資源の収集・保存・提供の促進	農研機構遺伝資源セ ほか	みどりの食料システム 戦略実現技術開発・実 証事業	農林水産省 →農研機構	大和野菜研究セン ター	R1～R7
吸湿剤を用いた施設園芸施設内の 温湿度調整システムの開発	国立研究開発法人産 業技術総合研究所	—	—	育種科	R3～R5
農薬残留対策総合調査	—	農薬残留対策総合調査	環境省 →(株)エ スコ	環境科	R3～
海外飛来性害虫の広域予察シ ステムの開発	農研機構、兵庫県、 熊本県、日本曹達 (株)	病虫害の効率的防除体 制の再編整備事業(農 水省)	農林水産省 →農研機構	環境科	R4～R5
イチゴの育種素材の検討	—	イチゴ有望系統の特性 検定試験	農研機構九 州沖縄農業 研究セン ター	育種科	R5～
スマートポリネーター監視シ ステムで活動把握！適材適所なポ リネーター投入によるイチゴ高 収益生産の実現	徳島県、三重県、岡 山大学、近畿大学	オープンイノベーション 研究・実用化推進事 業	農林水産省 →農研機構	育種科・大和野菜研 究センター	R5～R9
国内生産力強化のための多収 性、低窒素要求性、病虫害抵抗 性野菜品種の開発	岩手県、新潟県、埼 玉県、群馬県、千葉 県、愛知県、三重 県、奈良県、京都 府、佐賀県、カネコ 種苗(株)、(株) 渡辺採種場	食料安全保障強化に向 けた革新的新品種開発 プロジェクト	農林水産省 →農研機構	育種科・環境科	R5～R7
中山間地の分散型園地における カキの省力・高品質生産のため の通信新規格による双方向制御 システムの開発	近畿大学、(株)ア ズマ、五條吉野土地 改良区、(株)堀内 果実園、旭ヶ丘農業 生産販売協同組合	戦略的スマート農業技 術の開発・改良(生物 系特定産業技術研究支 援センター)	生物系特定 産業技術研 究支援セン ター→近畿 大学	果樹・薬草研究セン ター	R5～R7
特産花きの品質低下要因の解明 と品質保持技術の開発	MPSジャパン(株) ほか	ジャパンフラワー強化 プロジェクト推進(持 続的生産強化対策事 業のうち)	農林水産省 →国産花き 生産流通強 化推進協議 会	育種科	R5
良日持ち性ダリア新品種の現地 実証	農研機構野 花研ほか	ジャパンフラワー強化 プロジェクト推進(持 続的生産強化対策事 業のうち)	農林水産省 →農研機構 野花研	育種科	R5
良日持ち性ダリアの育成系統評 価試験					
酒造好適米新品種候補の選定	奈良県酒造組合、奈 良県農業協同組合	—	—	育種科	R5
茶葉における新規農薬類の残留 リスク評価と合理的利用法の確 立に向けた調査研究	農研機構 植物防疫 研究部門ほか	令和4年度農林水産 物・食品輸出促進緊急 対策事業	農林水産省 →公益社団 体法人日本 茶業中央会	大和茶研究センター	R5～R6
奈良式柿タンニンの品質安定 化・評価技術の開発	奈良先端科学技術大 学院大学	大学との連携事業(県 教育振興課)	県教育振興 課 →奈良先端 大	加工科	R5